

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	2774002089		
法人名	株式会社 時代		
事業所名	トキヨの鈴		
所在地	大阪府豊中市服部寿町2丁目1番12号		
自己評価作成日	平成27年10月29日	評価結果市町村受理日	平成27年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成27年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な接遇に努め、笑顔の沢山見られるグループホームだと言われる様心掛けております。水分摂取の重要性を認識し、可能な限り、利用者様の好みに合わせた飲み物を提供する事で摂取量の確保に努めております。体重の気になる利用者様には、カロリーオフのおやつを提供するなど配慮しております。外部との交流への取り組みとして、既存のボランティアの方とのパイプの確保に依り、ライブショー、マジックショー、たこ焼きパーティー、たい焼きパーティー、流しソーメン、夏祭り等、多様な企画で実施しております。施設内に閉じこもりがちな環境を踏まえ、春には近所の公園への花見がてらの小ハイキングや時間と陽気とスタッフの都合の許す限り、短時間ではありますが散歩も実施しております。系列グループからの招待でここ数年秋の太鼓祭りに参加し親睦を深めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体は、豊中市内で、住宅型有料老人ホーム、小規模多機能型居宅介護、グループホーム等を運営する、(株)時代(トキヨ)である。ホームは、平成15年11月に、木造2階建ての、1~2階部分に2ユニットで開設された。ホームは、服部天神駅から徒歩7分の住宅地域に在り、近隣には、商店街、スーパー、公園、娯楽施設等が在り、至便で、従来の生活の継続性が確保された環境が在る。ケアの重点を、「住み慣れた街で、家庭的な温かみのある小人数での共同生活を通して、今までの自宅での生活に近い毎日を自分らしく過ごせる支援」に置いている。全職員で創り上げた独自の理念を「寄り添う介護で安全で快適な暮らしを提供します」「地域に開かれたホームとして貢献します」として、これらの理念を具現化するために、管理者・職員が一体と成っての真摯な取り組みの実践の姿がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は①寄り添う介護で安全で快適な暮らしを提供します。②地域に開かれたホームとして貢献します。以上2点に基づき、事故の発生と、利用者さまから笑顔が消える事の無い事と地域の方達への挨拶を心掛けています。	全職員で創り上げた事業所独自の理念を「寄り添う介護で安全で快適な暮らしを提供します」「地域に開かれたホームとして貢献します」とし、ホーム内に理念を掲げ、職員や新人にも理念の徹底を図り、全職員が理念を共有して、理念の具現化に向けての実践がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花見を兼ねた春の小ハイキング、系列グループ主催の秋の和太鼓祭り、敬老の集い等、施設外でのふれあいの場への参加を積極的に実施している。	地域で開催される各種の催事に積極的に参加している。お花見と小ハイキング、敬老会、お祭り、毎日の散歩での人々との挨拶・会話、ボランティアと協働でのライブ・マジックショー、たこ焼き・たい焼きパーティー、流しソーメン等々地域との密なる交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議に於いて、所内で起こった実体験の事象を漏らさず報告する様に努め、認知症の方への介護の実態の理解を深めて頂いている。又施設見学の方へも、具体的な説明が出来る様心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状行っている利用者様への介護サービスの在り方が、妥当であるのかを問いかける場であるとの認識を持って臨んでいる。又情報収集の場とも位置付けている。	平成26年度は、年6回開催して、延べ39名の参加があった。参加者は、利用者、家族、地域住民、市職員、地域包括支援センター職員、介護相談員、施設代表者、管理者等の参加で、事業所の運営全般について、双方向的な会議を実施した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生保の利用者様が多いことから、福祉事務所との連絡を密にして、利用者様のアドボカシーの代弁に努めている。又高齢施策課からの情報には注意を払い、施設の運営を円滑に進め、利用者様に不利益が生じない様努めている。	日頃から市の担当者と相談・情報交換・指導を受けながら協力関係を築いている。毎月1回の介護相談員の受け入れを行い、利用者の話を聞き、相談に応じてもらっている。運営推進会議時には、地域包括支援センター職員との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年に入り、豊中市内でも虐待の事例が紹介され、市としての取り組みも強化される中、他人事との認識を捨て、外部、内部での研修や意識調査も実施し、各人の自覚を高めてもらえる様継続の実施に努めている。	全職員は身体拘束をすることの弊害は理解している。定期的に、身体拘束排除や虐待防止の研修を実施し、身体拘束・虐待ゼロのケアに取り組んでいる。各出入り口は鍵式から押しボタン式に改良し、利用者の出入りには即応体制をとり、見守りを重視している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待のもたらす社会的制裁を十分に理解してもらい、自覚しにくい虐待行為への理解も深めてもらうとともに、自ら虐待の当事者になる可能性がある事の自覚を持ってもらう。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者として、公共で得た権利擁護の現実的な知識を職員間で共有することにより、より以上理解を深める事が出来ると考え実践している。又、興味ある知識はその都度プリント配布等にて知識を深める様努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分時間を取って説明に努めているが、これまで外部評価による説明が不十分だった点を反省し、評価も加味した説明も行いより以上の納得感を持って頂く様配慮する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価で行う、利用者様からのアンケートでの評価を真摯に受け止めるとともに、訪問される家族様とのコミュニケーションの中からも、要望等引き出せる様努めている。運営推進会議にも出席いただき、意見を頂いている。	苦情相談窓口を設置し、意見・苦情・不安への対応をしている。毎月「トキヨの鈴」を発行して、各種行事、日常生活を報告している。家族の訪問時や運営推進会議でも意見・提案等を傾聴して家族との意思疎通を図り、それらを事業所の運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議の場での意見交換と、就業中出てくる意見なども、その重要度において適宜代表者への報告等で透明感のある職場づくりに努めている。	毎月定期的に全体会議を開催して、職員の意見・提案等を聞く機会を設けている。年2回の管理者面談では、日常業務の見直し、各種行事、ケアの技術や知識等を話し合い、各職員の動機づけやスキルアップに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員との面談などにより意識の把握に努め、悩み、要望などの聞き取りを実施し上司に進言、又は改善すべきところは実行することにより、職員の向上心やモチベーションの維持を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人のスキルを観察しつつ、適時外部研修を選択し受けてもらっている。目標として月1人程度外部研修受講を実施したい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会、地域ネットワーク会議には積極的に出席してもらい、同業者との交流の中からの情報収集に努めてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談での面談時には、本人とキーパーソンの方より詳細な情報収集に努め、要望、問題、不安などを把握し、こちらの提供できるサービスを詳しく説明し安心感と納得を与えられる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴に心掛け、家族様側の立場で物事を感じられる様に努め、参考的な経験的アドバイスが有れば提供し、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、利用者様サイドが要望される事項の優先順位を見極め、安心して安全なその方らしい生活が送れる様支援していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の支援をさせて頂く一方、その方の出来る事を見つけ、やって頂き、共に生活していることを感じて頂けるのではないかと考える。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族でやって頂けることはやって頂き、どうしても支援の必要な時の支えになる事に徹し、家族の絆を大切にした関係を築く様心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の意向を傾聴し、大切に思われている事を継続する為の支援は惜しまない様心掛けている。	アセスメント・シートにより利用者の生活歴や家族からの情報を収集して、利用者の従来からの日常生活の継続性を確保した支援をしている。親しい友人、知人、昔の職場仲間の訪問や馴染みの近隣の散歩、商店での買い物、公園、神社の参拝等での支援がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席順等配慮し、心地よく利用者様が過ごせる環境づくりを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られた利用者様でも覗きに行きたくなるような、家族的な人間関係を築く様に心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、その方を知る様努めている。又外部の相談員の方や他の職員からの報告やカンファレンスも参考に、幅広い視野での把握になる様心掛けている。	アセスメント・シート(利用者の基本情報)、日々の関わり、利用者の日々の言動等により、利用者の生活歴や暮らし方の希望・意向を把握している。把握しづらい面については、家族との意思疎通を図り、利用者の自己決定を促す支援の取り組みがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	簡単に把握できる方ばかりでない為、公的機関(福祉事務所等)も利用したりして、可能な限りの継続的に情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜勤者からの申し送り、カンファレンス、スタッフからの聞き取り等により現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短期目標の設定、モニタリング、カンファレンスをケアマネージャーを中心に職員が実践し、きめの細かい支援が各利用者様に提供出来る様心掛けている。	アセスメント・シート(センター方式)、診断書、個人別介護ケアチェック表、介護記録、日誌、本人、家族、職員等から各種個人別ケア情報を収集して、介護計画書を作成する。見直しは、毎月職員会議を行い、介護支援経過記録を基に、モニタリング表で評価をする。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録用紙にその日の、食事、水分、バイタル、排泄、様子等、その方の状況が誰が見ても判断できる様、担当した者が記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、公的申請の代行等、必要に応じて対応し、柔軟な支援を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	春には近隣公園での花見を計画し、おやつ持参で小ハイキングし季節感を感じて頂いたり、新年の神社への初詣も計画している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、御家族の同意の元、協力医療機関とかかりつけ医の契約をして頂き、月2回以上の定期往診と非常時ではコールセンター(24時間365日)で対応している。他医療機関への連携での支援も実施している。	本人及び家族の希望を尊重して、これまでのかかりつけ医が継続されている。事業所の協力医療機関での受診を希望する場合には、本人及び家族の納得と同意を得て受診するように取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の健康管理や医療面で、相談、助言、対応を随時して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはサマリーなどで、支援方法の情報提供を行う。主治医、又は担当看護師との打ち合わせを密にとり、事業所内での対応可能であれば、なるべく早く退院出来る様に支援する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期での対応は、利用者様の高齢化が進む中、早い段階から、本人・家族等と話し合いを行う必要である。事業所で出来る事の説明し、その時点での具体的な系列グループや協力医療機関も含めた対応方法を示し取り組んでいる。	「看取りに関する指針・看取りの事前確認書・重度化・ターミナルへの取り組み」の文章化したものがあり、早い段階から、その時々事業所の力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極め、必要に応じて関係者と連携を取っている。協力医療機関のバックアップで、既に、看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを整備し、理解してもらっている。又、消防署での防災研修は全員受講してもらう方向であり、スキルアップに繋げてもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、防災研修の受講は実施しており、年2回消防署の指導により避難訓練を実施している。今後地域住民の協力も得られるものにする事を考えている。	年2回の避難・救出訓練は確実に実施している。火災発生時マニュアルや緊急時連絡網も整備している。毎年の防災研修も受講している。事業所内にはスプリンクラーを設置し、安全を確保している。防災訓練の強化、地域住民との協力体制、備蓄等が継続課題である。	非常災害時の地域住民との連携や職員の避難訓練の頻度を上げる、特に、深夜に於ける地震・火災に対する具体的な訓練(行動・配置・方法・手段)等が必要であり、地域住民、消防署への災害時の協力要請が求められる。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護規定を念頭に行動している。声掛けの言葉使いは、親しさと砕けすぎを混同することなく適宜な言葉遣いを心掛けて対応している。	「接遇マナーの理解」を作成し、定期的に職員研修を行ない、全職員が対人援助サービスの知識や技術を身につけるように取り組んでいる。人生の先輩に対して、尊厳やプライドを損ねない対応の徹底を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中、命令口調になることなく、依頼、問いかけ等、本人の希望、要望が表出し易い状況を作るように心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体的な流れはあるが、極力その人に合わせた生活が送れる様、柔軟に対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	判断のできる方は、その人のペースでやって頂き、必要であれば、助言させて頂く。又こちらが判断せねばならない場合は、こちらの都合で考えるのではなく、その人の立場に立って対応するように心掛けている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の用意は、利用者様の傍で行っており、調理しながら会話を交え、食に対して興味を覚えて頂く様にしている。又、後片付けなども、出来る事はお手伝い頂き、役割分担して頂く様努めている。	献立表は、グループ本部の管理栄養士の下で作成し、食材は、ホームの調理師資格者が仕入れて、ホームのIH式厨房で、利用者の五感を刺激しながら手作りしている。利用者と職員は共に食卓を囲み、和気あいの家庭的な雰囲気がある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	重要な水分の摂取は、飲み物の種類を増やすと、十分な声掛けで対応しており、食事量は体調を見ながら不足にならない様配慮している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しており、介助の必要な方にはスタッフが対応している。又、週に1度歯科の往診が有り、口腔ケアをして頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、その方に合わせた排泄パターンでの声掛けと、要望時に対応し、見守りの必要な方には必要に応じた対応を実施している。夜間は入眠の妨げにならぬよう配慮した声掛けを心掛けている。	排尿・便チェック表に時系列に記録された、個人別排泄記録を基に、個人別の排泄パターンを把握してトイレ誘導を促がしている。あくまでも、利用者の自立を目指した排泄支援の取り組みを実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、腹部のマッサージも必要に応じて施行し、排泄状況に応じた便剤の調整や、必要に応じたかかりつけ医への処置依頼なども交えて排便コントロールを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、要望により時間をずらしたり可、能な限りの対応に努めている。	入浴は週2回を基本としているが、利用者の希望や体調により柔軟に対応をしている。入浴拒否の場合には、日時変更、清拭、足浴、シャワー浴等に対応している。入浴のリラックス時には、楽しみながらの会話をすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の、睡眠パターンを理解し、快適に眠れる様に支援している。必要に応じて眠剤をかかりつけ医に相談し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用や、相性等の学習を行い、疑問があれば、出入りのある薬局の方にアドバイスを頂いている。服薬で注意が必要な方には症状の観察等配慮している。誤薬への注意は最大限払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の中で、役割を持っていただける様に心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて、玄関前や近所の公園迄出かけ、季節を感じて頂いている。	利用者の体調や心身状況を考慮して、毎日の散歩、近隣の公園、商店での買い物、お花見、お祭り等や家族の協力での楽しみながらの外出支援がある。利用者が地域の人々とのふれ合いを楽しみ、季節を感じながらの外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は家族様よりお預かりした現金は、こちらで管理しており、その都度必要品は買い物代行している。今のところ、個人的に現金を所持したいとの要望はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、切り紙で季節を感じる壁掛けを利用者様を交えて製作して飾っている。又、BGMは適宜リラックスできる様流している。	食堂兼居間は、木造りの落ち着いた雰囲気がある。中央には、イス・机・テレビ・ソファ等を置いて、ゆったりと寛げる空間が在る。柱には絵・色紙細工、壁には、利用者と職員の共同作品やカレンダー・イベントの集合写真が貼られている。観葉植物も在る。季節感を出し居心地良く過ごせる工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本、テーブルの前の定位置での椅子に座って頂いているが、時を見て傍らのソファに移動していただき、会話を楽しんで貰っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人が馴染んでこられた家具調度品を持ち込んで頂き、リラックスできるスペース作りに配慮している。	居室には、馴染みの家具、写真、テレビ、お仏壇、手工芸品等が持ち込まれて、従来の生活の継続性を確保した、楽しみながらの暮らしがある。押入れ、ナースコール、スプリンクラー等も設置して、安心・安全を確保した良い環境が在る	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの必要な方には、部屋の立地を配慮して安全の確保に努めたり、トイレの近くのお部屋を確保したりし安全で且つ、自立した生活が送れる様に心掛けている。		